

122. 消化器癌患者におけるフレイルや日常生活自立度と臨床病理学的特徴、予後、抗癌剤の効果・副作用の関連の検討

研究の概要

わが国では平均余命の延長と高齢者人口の増加に伴い、高齢者の消化器癌手術症例が増加しています。高齢者は加齢に伴う運動機能、認知機能、臓器機能が低下し、健康障害に対する脆弱性が増加した状態(フレイル)を発症しやすいことが知られています。フレイルを有する患者は併存症や主要臓器機能の低下のため、標準治療を受けることが困難な場合も多いのですが、フレイルを有する消化器癌患者に対する治療指針が少ないのが現状です。フレイルを有する消化器癌患者の臨床的特徴や転帰を明らかにすることは重要であると考えられます。

研究の目的と方法

本研究では、2008年4月1日～2022年3月31日に国立病院機構熊本医療センター外科で消化器腫瘍に対して手術を受けた患者さまを対象としています。日常診療で得られたデータ(年齢、性別、検査内容、検査値、最終診断、治療状況、転帰など)を電子カルテから集計いたします。

本研究の参加について

これにより、患者さまに新たな検査や費用の負担が生じることはありません。また、研究で扱う情報は、個人が特定されない形で厳重に扱います。ご自身のデータを本研究に使わないでほしいと希望されている方、その他研究に関してご質問がございます際は、末尾の問い合わせまでご連絡ください。

調査する内容

本研究は、新たに試料・情報を取得することはなく、既存カルテ情報のみを用いて実施する研究です。です。研究対象者(患者さま)の個人情報(氏名、住所、電話番号、カルテ番号など)は、記載せず、対応表を作成して管理しますので、個人情報は特定されません。

調査期間

研究期間:倫理委員会承認後～2025年3月31日(調査対象期間:2008年4月1日～2022年3月31日)

研究成果の発表

調査した患者さまのデータは、集団として分析し、学会や学術論文で発表いたします。また、個々の患者さまのデータを発表するときも、個人が特定されることはありません。

研究代表者

国立病院機構熊本医療センター 統括診療部長 宮成信友

当院における研究責任者

国立病院機構熊本医療センター 統括診療部長 宮成信友

問い合わせ先

国立病院機構熊本医療センター 統括診療部長 宮成信友

TEL : 096-353-6501